

## 令和2年度第4回 庄原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和3年3月26日(金) 午後3時00分～午後5時00分
場 所	交通交流施設(備後庄原駅舎)
出席委員	加藤博和会長 山根英徳副会長 石田光雄委員 井上清憲委員 岡崎輝子委員 森木萬利委員 田村富夫委員 米田正裕委員 今田能久委員 松本佳博委員 山本直人委員 伊本浩之委員 土井幹雄委員(代理:迫田氏) 佐々木満委員(代理:本平氏) 山田和孝委員(代理:畠中氏) 森岡浩委員 尾野素子委員
委員以外の 出席者	呉工業高等専門学校 神田教授 備北交通(株) 稲垣氏 株式会社バイタルリード 遠藤氏、武田氏
欠席委員	深川委員 山本尚委員 石川芳秀委員 後藤茂行委員
事務局	毛利久子市民生活課長 田辺靖雄市民生活課市民生活係長 沖田晋耶市民生活課市民生活係主任

### 1 開 会

会長：

今年度は地域公共交通計画の策定ということで委員にはお世話になっている。

事務局：

本人出席14名、代理出席3名、欠席4名で、本会議の成立を報告  
会議の内容は公表となっている。議事録署名は会長と事務局長が行う。  
委員の変更を報告 (庄原警察署 松本交通課長)

### 2 資料

- ・会議次第
- ・庄原市地域公共交通会議の委員名簿
- ・庄原市地域公共交通計画素案の概要版
- ・庄原市地域公共交通計画素案

### 3 委員以外の出席者の紹介

事務局から出席者を紹介

- ・呉工業高等専門学校 神田教授
- ・地域公共交通計画策定の調査業務受託事業者 株式会社バイタルリードの遠藤さん、武田さん
- ・備北交通 稲垣さん

### 4 協議事項

#### (1) 庄原市地域公共交通計画(素案)について

事務局から庄原市地域公共交通計画(素案)について説明

会長：

神田先生より、ワーキング会議での議論の状況を報告してください。

神田教授：

ワーキング会議は、コロナの影響で対面の会議ができず全4回開催し議論を行った。旧市町から公共交通だけでなく、福祉や観光、教育など市民の生活に関係する方々にもメンバーに入ってもらった。交通の課題から議論を始めるのではなく、庄原の生活の課題、困っている事、できたらいい事を基に議論を進めたところ、200~300の議論を経てまとめた。

メンバーの共通認識は、「このままでは絶対に良くない」ということ。庄原の交通が良くないのではなく、庄原での生活が不便という認識である。今までの公共交通の計画は、限られた予算の中で路線をどう整理するか書いてあったが、今回は、限られた予算の中で、どうやっていきいき暮らせるようになるか、公共交通をうまく使って街に人が出るようになり、少しでも我慢していたことを我慢しなくて済むようになるのか、といったことを考えられるような計画にしている。

5年間で人口の1割が減少する状況なので、公共交通の利用者が増えるわけではない。庄原市の地域経済も1割減っていく状況なので、街に出てもらうことが重要だということで、ワーキング会議メンバーの共通認識が得られ、新たな視点が入っているように思う。P53に第4節「施策の体系」とあるが、基本方針2~4がポイントだと思っている。

新規、拡充というキーワードが入っているが、例えば基本方針2ではマネジメント体制を構築するとしている。庄原市に限らず、全国各地で地域の交通をどうマネジメントしていくのかを細かく議論していこうとしている。民間企業でいうところの企画会議、営業会議というイメージで、データを見ながらきめ細やかにマネジメントする。課題が一体何で、どう解決していくか。利用者を稼いでいく、マーケティングの観点が大きいところである。

基本方針3では、「輸送資源を総動員した」とある。バス・鉄道・タクシーの担う役割が大きく変わり、国も法改正し「地域の輸送資源の総動員」と記載している。バス、タクシー、福祉車両、自家用有償運送の担い手を地域に沿って調整し、回していくことを考えるのがポイント。

基本方針4では、利用しやすい運賃の検討として、いわゆるサブスクリプション等も入ると考えている。国の法改正もあって、これから変わった形が世に出てくるが、それを先取りする形になっている。庄原は課題先進地でもあるので、あらゆる課題を先に対処しておきたいという認識である。路線をどうするのではなく、マネジメントをどうするかに重点を置いた計画である。

もう1つ強調したいのは、今まさに、交通にとって大きな転換期であること。トヨタ自動車の豊田章男会長は「クルマ業界にとって大きな転換期」と言っている。様々なことができるようになってきたのも事実。庄原でもAIオンデマンド交通を導入して実験した。ポジティブにとらえれば100年に1度のチャンスだが、ネガティブにとらえるとこのままだと良くないという状態。最悪のシナリオは、鉄道もバスもなくなるということ。関係者間がガッチリと連携し、人口が減っていく中でも公共交通を維持していくモデルを作ろうとしている。待ったなしの状態の中、着実な実行に向けて会議の委員のみなさんにもお力添えを頂きたい。ワーキング会議でも、ボランティアで協力頂いていることに感謝申し上げる。

## 《質疑・意見交換》

会長：

事務局、神田教授から公共交通計画の素案ならびにその素地になっている議論について報告いただいた。交通計画の素案について皆さんから意見を頂き、最終的にはこの素案を承認するか伺う。

副会長：

庄原 MaaS 協議会のスマホを使った様々な実験の実施、備北交通が庄原駅にデジタルサイネージを置いてバスの到着時刻が表示されるなど、お客さんが安心して乗れるよう、どんどん技術開発が進んでいく。個人の端末で様々なことができるようになって、安心して交通手段が選べる状況になるのだと思う。新しい技術を用いて効率化が図られ、2.47億円という予算の中で住民の移動とよそから来た交流人口の移動が賄えるとしたらいいことだと思う。ぜひともこの計画を具現化して前に進めていければと思う。

会長：

その方向性を推進していくための計画になっているという評価だった。交通事業者の立場から、引き続きよろしくお願ひしたい。

委員：

計画を見て、前回とあまり変わっていないように思う。新規・拡充できればいいが、致し方ないとも思う。いかに市内に人を住ませたり連れてきたりするかを考えていけば、交通もそこに寄ってくるのではないかと思う。タクシーで言えば、業績は年々右肩下がりの状況で、右上にいったことは20年くらいない。バスもそうだと思う。利用者が減り、移動することが少ないからだと思う。

75歳以上で免許を持たない人の移動手段をどうするか、こまめにフォローすることを考えないといけませんが、目標値として「不便に思う人が8.7%」としている。費用が生じる話であるので、「できたら市の予算をもう少し引っ張ってきてほしい」と時々思う。掘った道路をまた埋めるような無駄な予算を公共交通に割り振ったらいいのではないかと思う。

会長：

2.47億以下という数字が出ている。利用者が増えて必要なお金が支出されるのであれば、ただの総額で議論するべきではないのでは、という議論もあった。

委員：

立派な計画だと思うが、記載してあることはあくまで庄原市の平均値だと思う。地域によって差異が出てくると思う。交通弱者がどのような形で移動できる環境を作っていくか、連携して協議が必要。検証を毎年やってもいい。地域の変化はとても大きいため、今の状態が2～3年続くということは全くない。住民にとって有益なものとなるように扱ってほしい。

会長：

人口カバー率の数字が出ていたが、高いところとそうでないところはある。きめ細かい実施体制や検証についてのご意見だと思う。進めるにあたって留意していきたい。

委員：

いろんな意見が出てきており、私たちも実態を探っている。基本方針が出ているが、これをどう具体的にしていくかが重要だと思う。

会長：

委員にはワーキング会議でも建設的なご意見を頂いている。地域に出て説明する場面も出てくると思う。

委員：

計画をどう具体化して、検証していくかも大事だと思う。

会長：

前回の会議でも病院に行って帰りの時間が合わないという話をされていたと思う。そのあたりも検証していければと思う。

委員：

公共交通の問題と私の出身母体である民生委員、地域福祉の観点でこの会議に出席している。

私がこの会議に参加する役割は、高齢者がドアトゥドアサービスを利用できるようにいかに整えていくか、生活交通としてどうしていくかを考えること。JRや備北交通のような大きなものではなく、も

っとミクロなところであり、そこに私の参加する意味もあると思う。P53 の基本理念、基本方針に共感しており、庄原市の交通を考える上では、基本方針 2～4 も必要な意見だと思う。これから実践になるが、どこまでうまくいくかはさておき、こういう理念の中で進められていくことは絶望ではない何かを感じられるように思う。

会長：

感動が非常に伝わってくる発言。民生委員児童委員協議会の場で計画や方向性なども色々お話し頂いて広めて頂ければと思う。

委員：

バス、タクシー、鉄道などの交通手段ごとに対策を考えることが多いが、交通手段だけでなく、観光客との交流や地域のことも含めて、マネジメントしていくという観点でこの計画は一步進んでいると思う。ワーキング会議では活発な議論がなされたと思われる。

会長：

従来の取組に加えて、新たに様々なチャレンジをしていくことを期待されていると理解した。

委員：

運転士の労働組合という立場で参加している。会社と連携して協議をしているが、運転士不足が本当に深刻な問題。会社も運転士も苦しんでいる。運転士が確保できれば、小さいところまで手が届くが、逆に収益が上がらない。これらの問題も含めて公共交通だけでなく、観光や商業の観点でもみんなで勉強して庄原市全体を活性化させ、「庄原っていいところだな、住んでみようか」、「公共交通もしっかりしていて、辛いところに手が届くな」と思ってもらえる理想に向かっていければと思う。

会長：

組合の方でも情報共有いただきたい。

委員：

警察の立場として、免許返納について意見する。運転技能をチェックして返納を促すが、公共交通が貧弱でなかなか返せないという状況であった。計画の推進は、交通安全につながる部分もあると思う。着任してすぐではあるが、計画を見て勉強させていただきたい。

委員：

持続可能な交通というフレーズがあるが、交通事業者としての観点で必要なものはここだと思う。地域交通として、将来にわたって持続可能なものにしていくことについて、支援させていただく。

計画に対する意見として、P. 53 と概要版 P. 8 について、施策等と評価指標の関連性を具体的にイメージできなかった。評価指標は庄原市の事務局の活動に重点が置かれている気がしていて、例えば芸備線の利用促進の取組はどこに含まれるのか疑問だったのでご検討いただきたい。

また、事業者からの意見として、P. 17 の速度制限について、速度制限自体は事実だが、保守点検の合理化が目的ではなく、実態としては安全確保のためというのが我々の認識であるため、表現方法について相談させていただきたい。

非常に激動期であるので短いスパンで進捗を確認して、変更に向けた施策を打っていく必要があると思うので協力していきたい。

会長：

考え方や指標等について、事務局で検討いただきたい。表現方法についても事務局との間でやり取りしてほしい。

委員：

道路管理者として出席している。自身の怪我を機に病院までの公共交通を調べたところ、ダイヤが合わずタクシーを利用したが、バスやタクシーの必要性を実感した。バスロケやIT技術を使うことも必要だが、乗らないと始まらないし無くなってしまう。どんなに利便性が高いものでも使ってもらわないなら撤退するしかない。1人が1回乗ってみて問題点を挙げたり、クルマ時々バスなどの乗る仕組みが必要だと思う。

会長：

地域外から来ていただいているので、様々な意見をいただければと思う。ちなみに怪我の後は公共交通機関を利用しているか。

委員：

まだ乗っていない。

委員：

観光の仕事に携わり始めて7年になるが、近年の一番の壁は二次交通。こんな素晴らしい自然、素晴らしい観光地があったとしても、バス等がないという状況であった。MaaSの研究などに取り組んでいるが、JRやバスの便が爆発的に増えることは無いため、なんとか維持しながら進めていければと思う。

JR西日本から協力を頂いて庄原ライナーという臨時列車が運行されている。庄原DMOでは旅行業を持っており、備後庄原駅から帝釈峡へ貸切バスを手配することができるが、貸切バスがなければ帝釈峡や備北丘陵公園に行くための二次交通が課題だと実感している。自分自身が後期高齢者になり、クルマが運転できなくなった時の不安も増えてきた。新しい道を開いていければと思う。

会長：

二次交通が課題で、解決できれば庄原の印象も変わるのではないかというご意見。施策にも「観光シーズンの移動需要を考慮したサービスの提供」が新規として入っている。庄原DMOとも連携して取り組んでいきたい。

委員：

基本方針、基本目標、基本施策が具体的に定めてあるため、目標値等との整合がとれていた方がわかりやすい。そもそも乗っていただかないと事業者も大変な状況であり、乗ってもらえれば、財政の支出も少なくなる。そのためには便利が良くないといけない。

目標値を立てるときは、現況値に近い値になるが、それでいいのかと思う。財政支出も、本当に目標とするところはどこなのか、考える必要がある。例えば1千万円減らそうと思えば、どのくらい公共交通の利用者数が増えることが必要なのか、観光利用を増やすことが必要なのかなど考えられる。公共交通の利用者数も目標値を立てると思うが、例えば現況値が20万人だから目標値は20万人ちょっととするのではなく、「これだけ財政支出を減らさなければならぬからこれだけ利用者が必要」ということを考えないと、目標値と実際に思っていることがリンクしない。手の届かない目標を立てるのは難しいかもしれないが、高い目標も必要。危機感がないと、新たな道や手法が生まれない。今まで通りのことでは解決は難しく、新しい施策に取り組もうと思えば、目標に届かないからどうすればいいか、といったことを考えなければならない。危機感が強いほど、様々なアイデアが出る。目標値は現況値によるのではなく、そもそもどのくらい必要なのかということをよく分析して作ってほしい。

会長：

コロナ禍もあるが、その中で新たな需要も生まれていると思う。前回も特区を取るといったご提案もいただいている。攻めていく部分もあったら、というご意見だと思う。

委員：

私の立場である福祉分野は日々の生活が重要であり、日々の生活が成り立たなくなると、ここには住めなくなる。生活には買い物、通院、その他諸々の出かける機会を持つことが大事。

公共交通を考えた時に、これだけ様々なものが無いなかで、今あるものをいかに利用していくか考え、乗合のような形でタクシー等を利用するなど、利用者側としてどういうことができるかも考える必要がある。なかなか名案が出ず、自分で運転していきたいところに行くというのが当然な状況の中で、免許を返納した後のことを考えたら乗合も考えていかないといけない。DXがデマンドバスやタクシーを共有することにつながってくることについて、どこか接点が無いかなど思っている。小さいことだが、それを積み重ねていくことができればと思う。

委員：

今後パブリックコメント等を実施するのか。

事務局：

本日この計画素案を協議いただき、パブリックコメントを4月～5月にかけてWebサイトで実施し、合意形成を経て策定という流れになる。5～6月ごろになると思うが、この交通会議で最終的な計画を再度お示しさせていただく。

会長：

次の交通会議で確定するという理解でよいか。今日の意見で反映できるものは修正して頂きたい。

委員：

庄原市のように広くて多様な交通手段がある中で、ここでの議論を踏まえて課題を丁寧に拾われ、各分野から突っ込んだ議論も出され、今年度の計画策定を通じて大きく進んだのではないかと感じており、非常に勉強になった。

県でも公共交通の持続可能性について、行政負担もあるが、事業者の負担も重くなってきていることが露わになってきたと思う。解決するために新しい技術や発想が怒涛のように出てきているが、各市町でどのように取り込んでいいのかわからないという危機感がある。飛び込んでいかないといけないという課題感はある。具体的に挙げられた課題を見て、具体化していくのが非常に大変だと感じているが、各施設との連携や運賃体系などについても県も一緒に頑張っていきたい。

会長

広島県でも機構改革があり、DXも進められると聞いている。

委員

まだ発表されていないが、補助制度等も含めて様々なことが変わっていくことになると思う。

委員

委員ではあるが、所管課と同じ思いは共有している。この1年、委員のみなさまにはご多忙の中貴重なご提言、ご意見を頂いたことに御礼申し上げます。神田教授にもワーキング会議にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

今年度、市の生活福祉部では介護福祉計画、障害者計画、交通計画の3つの計画に携わっている。3計画に共通していたのは、人材の不足ということ。元をたどれば人口減少が根本にあると思っている。ほかの計画でも申し上げているが、できることはご協力いただき、関係部局等での働きかけ、声掛けをして頂きたい。人口については、もう3万人しかいないのか、まだ3万人もいるのかで意識の持ち方が変わってくる。目標値の考え方について、委員から厳しいご指摘を頂いたが、施策を1つ1つ積み上げていく中で、目標値の考え方まで細かく議論ができなかった。財政部局との調整も今後出てくるので、内々には細かい議論をして調整していきたい。

会長

P. 46 の山内自治振興区のアンケートの例が出ているが、他の自治振興区の勉強会やボランティアの取組なども紹介してほしい。以前、旧市町単位で生活交通勉強会が立ち上がっていて、その中で現在のこまわりくんができたと思う。また、高野では道の駅が建設中で、そこを核とした公共交通体系が検討されていたように思う。そのほか、様々な形で勉強会も行っていたと思うので、ぜひ共有頂きたい。

2点目は、生活交通の人口カバー率の目標値が95%となっているが、これを引き上げてできれば100%を目指していく取組も必要だと思う。5年後に3%しか改善しないのは低いと感じるため、検討いただきたい。

委員

数値目標について、総額で決める方法もあるが、市の財政の中の何%を占めるかということもある。市の財政が厳しくなってくると、2.5億が重い負担になってくると思う。その考え方も検討いただきたい。

会長

素案について、今日のところはこの形でまとめることについてご異論無いか。

《承認》

全員承認

## 5 閉 会